

いちばん好きなこと

井出三知子

月に3回夜7時に迎えに行って、わが家に一緒に帰るようになって2年が経った。彼は星が大好きで必ず北斗七星を探して教えてくれる。私は移動する星の位置で季節の移り変わりを感じていた。

8月のある日、いつものように星を探して歩いていると、彼は何を思ったのか突然に「僕は好きな人が3人いるんだけど、いでちゃんが一番好きだよ」言い出した。一番好きか、なんて、言われた事も言った事も遠い昔にあったが、すでに記憶のかなたに埋もれてしまっていた言葉だった。久しぶりに聞いた言葉の響きが私の心の中を暖かい風のように吹きぬけていた。

「3人って誰なの?」「お母さんと幼稚園のゆうたくんと、そしていでちゃんだよ」「お兄ちゃんが入ってないの」「お兄ちゃんはいじわるするから嫌い。いでちゃんが一番好だって言ったことはお母さんに内緒だよ」まったく調子がいいのだから子供特有の世渡りの術で、私を喜ばしてくれる。もちろん母親が一番好きなのは百も承知だが、それでも一瞬でも彼の口から出た一言は、一緒に過ごした時間が報われたように思えた。



彼の名前は暖貴君（ハルキ）6歳、しし座、あだ名は物知り博士。好き物はチョコレート、ウルトラマン、トム&ジェリーそして星座。

2010年7月に私は、会社を定年で退職した。前から解っていた事だったが、自分を必要としている場所が無くなってしまいう寂しさでいっぱいになっていた。

日本大百科全書より

そんな時、葛飾区の子育てボランティアの制度を知り登録した。

区が最初に紹介してきたのが、はるき君でした。保育所は7時までしか預かってくれないので、おかあさんがその時間まで迎えに行けない時だけ、私が代理で迎えに行き、わが家で預ってました。

1ヶ月3回でしたが、それでも必要とされていることうれしくて仕事がなくなった私にとって趣味とは違う緊張感がありました。一番良かったのはボランティアをすることによって会社生活の枠の中から新しい生活にスムーズに移行させてくれたことでした。まったく地域と係らないで生きてきた私が地域に溶け込む第一歩になりました。はるき君をサポートする立場なのに実は私がサポートしてもらっていました。



彼は時々私に質問をします。ウルトラマンは何人いるのか。ポテトチップはどうしてできたのか。夏の雲は何なのか。「ものしり博士」とあだながついて当然だとおもわせるくらい、いろんな事を話してくれます。先日私が質問の意味がわからなくて、パソコン

で調べたのを見てから、彼はパソコンがやりたくて、わが家の着くと「おかあさん遅く迎えにすればいいな」と言いながら夢中であれこれ検索しています。もちろん電源の入れ方から私が教えたのだが、脅威的な速さで覚えてしまいました。

はるき君に言われた「僕はいでちゃんが一番好きだけどいでちゃんは何が一番好きなの」と質問されてとっさに「はるきが一番すきだよ」と答えたものの、はるきの言葉が頭から離れませんでした。

いったい私は何が好きなのだろうか、何をしている時が一番好きなのだろうか、何がしたいのだろうかと自問自答していました。

私は毎日が忙しく過ぎていくのが、充実して生活していることだろうと思い込んでいました。その結果、こなすのがやっとで好きか嫌いかを考えている余裕すらなくなっていました。

暇、恐怖症の私でもこんな中途半端の状態はまずいのだろうと、漠然と考えていたところだったので、今の状態をふりかえる良い機会を与えてくれる言葉でした。

私は50歳の始めごろから、定年になったらやりたい事を入れておく箱を作っていました。その箱は「お楽しみ箱」と名前がついていて、その中に目についた情報や、メモを入れて定年後の自分にそなえていました。その中に答えが見つかるのではないかと思い久ぶりで開けてみました。けれどその時と今の心理状態が変化していたようで箱の中に答えはありませんでした。ただボランティアだけは、唯一実現していましたが、ほとんど物は定年後、いろんな人に出会い、その人達から影響をうけて始めたことばかりでした。



定年後やり始めたこと

塗り絵、葛西囃子、シヨートテニス、かつしかPPクラブ、ハンドベル等、「お楽しみ箱」の中身とはずいぶん違ってます。今は好きが嫌いかではなく、一緒にやっている仲間を大切に継続して行きたいと思っています。そうしていたら、そのうちに答えが見えてくるかもしれないから。もしかした私が一番好きなのは人かもしれない。願わくは魅力的な男性がそばにいてくれれば、それが確実に一番だと思うのだが、これは、いまからでもメモして「お楽しみ箱」に入れておこうと思う